

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東通り)

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろ会		
事業所名	グループホームあすなろ南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	平成 27年 10月 19日	開設年月日	平成18年 12月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

相手の立場に立ち、本人の思い、希望に添ったケアを心がけています。尊厳を大切に、自立支援を心掛け、待つ姿勢を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西通りに記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 27年 11月 19日	評価結果決定日	平成27年 12月 17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あすなる南陽の独自の理念「一人一人の願いや思いを叶える」を利用者様にお聞きたり、叶えるにはどういった生活目標にするかを常に話し合っています。また、理念は事務所に掲示時し、実施出来る様に心掛けています。	事業所の今年度の目標は「一人ひとりの思いを叶える」とし、利用者の思いを把握し、それに沿った支援を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の夏祭りや芋煮会の案内を出し、イベントに参加し、利用者や馴染みの友人、地域の行事に社会参加出来るよう交流している。	地域の行事(菊祭り、くまの市での野菜売り)に参加している。日ごろの散歩等で地域の人達に積極的に声かけをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委員の方、ボランティアの方とお茶会等では、認知症について理解について話しをさせて頂いているが、勉強会を開くなどの発信は出来ない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、地区長、老人会の代表、家族会の代表をお招きして二か月に一度開催している。意見やアドバイスもたくさんいただき、一つ一つ対応しています。	2ヶ月に1回定期的に開催している。市の職員、民生委員、老人会(高砂会)、利用者家族等の参加で開催され、事業所からの利用者の状況、苦情、事故等が報告され事業所の課題に対しての意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課、包括支援に分からない事柄、困難事例の対策打破を相談したりしている。	運営推進会議に参加して頂き事業所の課題等に対して相談したり、意見を頂ける関係が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	自由とリスクを考えながら、見守り付添を大事にし安易に拘束しないよう職員みんなで協力している。ご近所にあらかじめ説明しておく等し、玄関には鍵をかけずに過ごしている。やむ負えなくベットの柵を使う場合は、ユニットで相談し、ご家族に同意を取っている。身体拘束についての勉強会に参加している。	やむを得ず身体拘束が必要な利用者にはたいしては家族から同意書を頂き日常は見守りを主に職員で協力している。身体拘束、虐待防止の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あすなるの会の内部研修に参加し虐待について勉強をおこなっている。また、ミーティング等で話し合いの場を設けている。職員間でも虐待について話し合い、意識して対応に心掛けている。常に職員同士気を付け、声掛けし合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会も予定してあり学ぶ場を設けている。必要があれば身元引受人、主治医、市役所とも話し合い情報提供が出来る様にしておく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	やむを得ない状況で入院等になった場合は十分な説明を行っている。主治医の意見などもあり、スムーズに移行できている。また、利用者様やご家族が聞きやすい雰囲気作りにも気を使っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開き意見や要望を出していただいています。運営推進会議にも家族に参加してもらい、意見交換しています。	法人としてアンケート調査を行ない、家族の意見を得る取り組みが行われている。今年度は結果はまだ出ていない。又、毎年開催される家族会での意見や、運営推進会議の時の意見を参考にしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで、各会議の報告と職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は管理者を通し、毎月本部に報告している。職員の家庭環境や事情を考慮して勤務形態や希望休等の相談に応じ、安心して働けるようにしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の交換実習やあすなるの内部研修に参加しスキルアップに努めている。	法人に”あすなる育成会”が組織され、内部研修が行なわれている。外部研修にも参加し、カンファレンスの時に伝達研修は行なわれている。又、GH協議会の研修にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に参加し、交換実習も行っている。	交換研修に参加して、他の事業所からの情報をもとにサービス向上の為の取り組みがされている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所事前にお話を聞き、見学をしてもらったうえで要望や不安な点を再度お聞きする。家族の前で話せないような状況の時は別にお聞きし、安心してもらう様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前になるべく多くの情報を集め本人、家族の不安を別個に聞き取りをしたり、臨機応変に努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている1番のニーズを把握し、必要に応じてはデイケア、ボランティア等ほかのサービスも取り入れそれを活かすように努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活歴に注目し、仕事、経験、習慣等を大切にし、自宅での生活に近い状態で役割を持って生活して頂ける様努めている。職員にも教えて頂きながら、信頼関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所によって家族の介護負担の軽減をし、通院や面会等多く関わりを持って頂ける様、利用者の状況をまめに伝え、触れ合う機会(行事等)を沢山作るようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方が自由に面会できるように開放し、個別対応で馴染みの場所へ外出、友人宅へお茶飲みに行ける環境を作っている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介して場を盛り上げたり、孤立しないよう介入している。思うように伝えられない方には、代弁して言葉を選んで利用者同士談笑できるように努めている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所の際は、お見舞いや面会に行ったり、家族からの電話もいつでも受けれる体制を作っている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や価値観等、大切にし、本人の意向に添えるよう努めている。隠れた意向も探る努力をして、本音を言える、聞けるように雰囲気作りをしている	利用者との話し合いを出来るだけ行い、利用者の気持ちを汲み取る努力がされている。献立を決める時に希望を聞いてその日の献立に反映したり、在宅していた地域のラーメン屋に行ったり、各人の思いや意向を個別に聴きそ	利用者の生活歴や思いを把握し、職員間で情報を共有し、利用者の意向に沿った7支援を更にして行くことが期待される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートを使って聞き取りをしている。本人からの聞き取りが困難な場合家族に協力してもらい情報を集めている。また、伺った情報は記録し職員全員で周知できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、バイタルチェック表や排泄チェック等、毎日記録し、会話や行動からも把握できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一回のモニタリング、月一回のケアカンファレンスでの状況の把握に努めている。ご家族とは、来所時や電話で話している。	毎月1回ケアカンファレンスで利用者の状況を共有している。家族の意向も確認して見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェック、排泄チェックを記入して現状の把握に努めている。個人記録には、会話や行動等も記入し、職員間で情報の共有が出来るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに参加したり、買い物散歩を通じて地域と交流を図れるようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を優先し、かかりつけの医師に受診している。必要な情報は、個人記録を基に受診報告書に記入し、口頭や電話でも連絡している。家族対応の受診であっても状況に応じて同行している。	協力医の往診が月2回行われている。かかりつけ医への受診は家族が同行している。薬の調整中の利用者場合は職員が動向している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が訪問時、状況報告や対応について相談、指示を仰ぎ、話し合いを行っている。往診時も看護師付き添いで、医師への相談や指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、面会、電話等で状況の把握に努めている。急変時等は、主治医に連絡し指示を仰ぎ、紹介状等を書いて頂き、専門医に受診している。退院時も退院カンファレンスに参加し、情報共有に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、施設の現状の説明を行い、意向をアンケートで確認している。看取りについては、まだ体制が整っていないが、ご家族、看護師、主治医の協力等、状況に応じて対応している。	入所時に確認しているが、利用者の症状や家族の意見等変化に伴い、その都度話し合っている。現在看取りの希望の利用者がいるが、かかりつけ医、看護師、管理者、家族と話し合っ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け、急変時の対応に備えている。施設看護師に相談し、個々の対応法も勉強している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル、避難マニュアルを作成し、定期的に避難訓練をしている。推進会議でもマニュアルの確認を行い、協力をお願いをしている。	今年3月、10月、12月と防災訓練を実施、及び予定。地域での水害訓練に対しても事業所から2名参加。職員が消防学校で研修を受講して災害の訓練マニュアルの見直しや、利用者が避難する時のペンダントやヘッドライト等の備		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に不快な言葉づかい、態度をすることのない様に気を付け個々に合わせた声掛け対応をしている。	あすなる会の内部研修で職員に周知されている。日常生活に於いては職員同士で気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話して頂ける関係作りを心掛け本人の思いや希望に添ったケアをしている。自己決定が出来るように出来るだけ待つ姿勢を大切にしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重し、生活歴習慣に添ったケアをおこなえるようにしている。希望や思いをくみ取りその方らしい生活が出来る様に常に業務の見直しをしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて本人が着たい服が選択できる様支援している。爪のケアや髪染め等も希望に沿って行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状況および嗜好を考慮した食事の提供。旬の食材を中心に一緒に買い物をしたり、畑から収穫した野菜を職員と一緒に調理、盛り付けを行っている。	献立は利用者に声がけて食べたいものを優先にしている。食材の買い物には利用者も同行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、排泄のチェックを行い状況把握に努め、水分補給の声かけや個々に合わせた食事の提供方法を話し合い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来ないところは介助させて頂いている。夜間は入れ歯洗浄剤で義歯洗浄を行っている。年1回の無料歯科往診を行っており、希望者には訪問歯科を利用して頂き、医師と連携して各利用者様に合わせた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の心配がない方は下着対応している。個々に合わせて声かけ、誘導行っている。自分でトイレですること、自信を持てるように支援している。	チェック表を利用してできるだけトイレで排泄できるようにしている。夜間は不安がある利用者はリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューの検討、工夫をしたり、水分を多く摂取して頂く等の対応をしている個々の状況に合わせた下剤の調整を、医師や看護師と相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を取り入れながら、週2~3回その人に合ったペースで楽しく、リラックスできる入浴になる様心掛けています。入りたい日、薬湯、足湯等希望を聞かせて頂いています。	週2回を基本としている。手浴や足浴等も行っている。バスクリン(2種類)等を利用して入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間、余暇は個別に対応し、牛乳やココアを飲んだり、TVを見られたり、晩酌したり様々ですが、体調に合わせた支援をしています。夜間眠れない方には落ち着いてから休んで頂ける様対応しています。安心できる声かけを心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に、薬の仕分けや複数の職員で間違いのないように確認している。薬の変更があれば、申し送りや記録の徹底をし、把握に努めている。必要時は主治医に報告、相談している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、仕事や趣味等、好きな事や得意な事を継続出来る様支援している。カレンダー作り、広告の箱折り、洗濯干し等、それぞれ役割を持って過ごして頂いている。カラオケや音楽鑑賞等も行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行事やドライブ、レクレーションを企画している。天気の良い日には、公園や町内の散歩、駅の動物を見に行ったり花を摘みに行ったりしている。個別の買い物やお出かけ等、本人の希望を出るだけ叶えられるよう対応している。	事業所の行事で季節の花を見に行ったり、紅葉狩りや上山城等に出かけている。又各個人の希望にも対応している。(ラーメン屋等の外食)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて自分で管理させている方もいる。必要な物や食料品等、職員と一緒に買い物している。自分でお金を払って買い物をするようなレク等の機会を多く作るようにしていきたい。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自由に電話できる様、ご家族の同意を得る等の支援を行っている。手紙等も自由に出せる様支援している。年賀状やポストカードを作ってご家族に送る等行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感を感じてもらおう飾り付けをしている。落ち着ける場所作りを行い、不穏軽減に努めている。空調等、利用者様に聞きながら適切にするよう心掛けている。	ホールは食事時も利用している、グループで食事をしたり、個人の座る場所が決まっている。職員が目届くように又常に話しが出来るように配置している。いつも季節の花を飾って季節を感じるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が過ごせる様、テーブルの位置、場所を工夫している。また、居室でTVを見たり、雑誌、新聞を読んだり、好きな事が行え、自分の時間が持てる様支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具などを置いたり、使いやすいよう配置し、落ち着いて、居心地良く過ごして頂ける様工夫している。また、ご家族にも写真や絵など飾っていただいたり、協力して頂いている。	プライバシーを大切に安心してその人らしく過ごせる様に工夫されている。又家族の協力で写真等も飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLを確認、把握し、自立支援を心掛け、事故のない様、安心安全な生活が送れるよう支援する。	/	/